

### 第3回「2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議」結果概要

1. 日 時 平成27年3月25日（水）午後3時～4時15分

2. 場 所 三井ガーデンホテル千葉3階 平安南

3. 出席者 別紙のとおり

#### 4. 議事概要

##### （1）開会

○司会 会議の開催に先立ちまして、委員の皆様にお知らせいたします。本会議につきましては、千葉推進会議設置要綱第6条によりまして、原則として公開するものとしておりますので、御了承いただくようお願いいたします。

また、報道機関の皆様にご覧いただけます。カメラ撮影は知事挨拶までとさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、ただいまから、第3回2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議を開会いたします。

私は本日の司会を務めます政策企画課の中村です。よろしくお願いいたします。

初めに、本会議の会長である森田知事から御挨拶を申し上げます。

##### （2）会長挨拶

○森田会長 きょうは大変御多忙の中、まことにありがとうございます。着席にして失礼させていただきます。

第3回推進会議の開催に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

委員の皆様には御多忙の中、御出席を賜り、まことにありがとうございます。

東京オリンピック・パラリンピックまであと5年となりました。リオデジャネイロでは、来年に迫った本番に向けて、今年の夏からプレ大会が始まりますが、世界各国では既に2020年の事前キャンプに向けた準備が進められるなど、東京大会に向けた動きも活発になっているところでございます。

大会の組織委員会も、先月、大会開催基本計画を取りまとめ、国際オリンピック委員会とパラリンピック委員会に提出し、開催に向け、準備を本格化させているところでございます。

本県といたしましても、こうした動きに遅れをとることなく、2020年に向けた取り組みを進めていく必要があります。本日協議いただく戦略は、そのための第一歩となります。今後、戦略に

掲げる取り組みを、委員の皆様方とともに、県の総力を挙げてしっかりと推進していき、オリンピック・パラリンピックを契機とした千葉県のさらなる発展を確実なものとして、それらを次代を担う子供たちに引き継いでいきたいと、そのように思っているところでございます。

委員の皆様方におかれましては、2020年、さらにはその先を見据えて、専門的・総合的な立場から忌憚のない御意見を賜りますよう、よろしくお願いをいたします。

ありがとうございました。

### (3) 議事

○司会 それでは、これからの進行につきましては、石井議長にお願いいたします。

○石井議長 それでは、これより議事を進めます。

本日の会議では、前回の議論を踏まえて修正した戦略（案）について協議をいただき、この場で戦略を決定するというにしたいと思っております。よろしくお願いをいたします。

では、次第に従いまして、議題1、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略（案）について協議いたします。

事務局から説明をお願いいたします。

○今泉政策企画課長 事務局の政策企画課長の今泉でございます。よろしくお願いをいたします。

議題1、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略（案）について、御説明いたします。

まず、資料1の「戦略（素案）に対する主な意見と対応について」をごらんいただきたいと思っております。

前回の推進会議で戦略の素案をお示しいたしまして、委員の皆様から御意見を頂戴いたしました。いただいた御意見につきましては、戦略案に反映させるとともに、今後の具体的行動として取り組んでまいりたいと思っております。

ここで、主な御意見とその対応案について御説明いたします。

まず、1の御意見ですが、総花的になっている。また、課題の検証を行うことが必要との御意見でございますが、この戦略は、昨年7月に策定した基本方針で示された5つの取り組みの方向性を実現させるため、オール千葉体制で推進すべき取り組みを記載しております。総花にならないように注意はいたしますが、幅広く記載することについては御理解を賜りたいと思っております。また、課題の検証につきましては、例えば8月に開催される世界陸上北京大会の事前キャンプの受け入れにおいて、具体的取り組みを進める中で課題の検証を行いながら、今後の取

り組みに反映させてまいります。

次に、2の優先順位づけや重点項目の絞り込みが必要ではないかとの御意見でございます。この戦略はオール千葉体制で進める取り組みを示しているもので、多様な主体がかかわっていることから、全体としての優先順位づけや重点項目の絞り込みは難しいところですが、今後、各主体が事業を実施する段階において、それぞれ状況に応じて優先順位づけや重点項目を御検討いただきたいと思いますと考えております。また、専門部会におきましても、今後早急に取り組むべき事項などを検討してまいります。

なお、参考資料といたしまして、戦略に関連する県の主な事業を抜粋して取りまとめております。その資料は資料3でございます。資料3「(参考)「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略」に関連する県の主要事業」というタイトルがついております。こちらをごらんいただきたいと思います。

この資料は、県の2月補正予算及び平成27年度当初予算に計上した主な事業のうち、オリンピック・パラリンピックに向けた新規事業や拡充した事業に加え、戦略に記載している取り組みに対応している事業について整理しております。これは、オール千葉の主体の一つである県の取り組みを示す資料でございますが、県としては、オリンピック・パラリンピックに向けて早急に着手すべき事業、また既に着手している事業、また、早期に着手することにより、より高い効果が期待できる事業などを計上しております。内容の説明は省略させていただきますけれども、具体的事業といたしましては。市町村の施設整備に係る貸付事業ですとか、世界陸上のキャンプ受け入れ事業、また、アスリート強化支援事業、また、観光地のトイレ整備をスピードアップするための事業などを盛り込んでおります。

再び資料1のほうにお戻りいただきたいと思います。

資料1の3番目の御意見でございます。キャンプの誘致に当たり、県内のコネクションを活用して積極的に動くといよいのではないかと御意見ですが、これまで世界陸上北京大会の事前キャンプ誘致などを行ってまいりましたが、さまざまな人と人のつながりが誘致実現の大きなポイントになったと認識しております。今後とも、委員の皆様を初めさまざまな方々のお力添えをいただきながら、2020年のキャンプ誘致に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

次に、4番目の御意見ですが、選手にとっての一番のおもてなしは観客の数であり、車椅子バスケットなどの大会開催に向けて、多くの観客を集めることが大切との御意見をいただきました。車椅子バスケットボールアジアオセアニアチャンピオンシップの開催に向けて、今月7日に、日本車椅子バスケットボール連盟が中心となり、千葉県、千葉市も加わった実行委員会

を立ち上げたところでございます。10月に開催される大会の成功に向けて、産学官民が一体となって盛り上げてまいりたいと考えております。

次に、5から8までの御意見ですが、2020年に向けた選手の発掘・育成などについて御意見をいただきました。現在進められているジュニア強化事業を拡充し、来年度からはパラリンピック競技も対象に加えた競技力向上の取り組みを、関係団体と連携しながら進めてまいります。

続いて、9番目の御意見ですが、自治体同士の連携を深めるためにも、県内道路の整備を進めていただきたいとの御意見でございます。道路整備を初めとした交通ネットワークの強化・充実につきましては、今回の戦略の中の戦略3の中で記載しておりますが、今後とも効果的・効率的な道路整備を進めてまいります。

最後に10、世界から尊敬されるような日本のよい習慣、文化として残るようなものをつくられるとよいと思うとの御意見をいただきました。温かいおもてなしの心を持って国内外からの来県者を迎えられるよう、オリンピック・パラリンピック後にもレガシーとして残るような県民意識の醸成を図ってまいりたいと考えております。

なお、2ページ以降は市町村からいただいた御意見と対応案でございます。市町村からは、御意見もありますが、要望事項が多いということもありまして、内容につきましては今後、専門部会などで具体的に検討してまいりたいと思います。

それでは次に、戦略案について御説明いたします。資料の2「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略（案）」をごらんいただきたいと思っております。

先ほど御説明いたしました御意見などを踏まえまして、素案からの修正を行っております。主な変更箇所を御説明いたします。

表紙をめくっていただきまして右側のページ、「はじめに」をごらんください。

これは新たに追加したものでございます。ここでは、千葉県にとっての東京オリンピック・パラリンピック開催の意義、また、基本方針の策定からCHIBA推進会議設立までの経緯、また、戦略の概要と今後の見直しについて記載しております。

下から2段目の「戦略では」という段落がございます。こちらのほうをごらんいただきたいのですが、ここでは、戦略策定に当たっての基本的な考え方といたしまして、基本方針に掲げる5つの取り組みの方向性に沿って9つの柱を立て、本県のさらなる発展に向け、2020年以降も見据えて取り組むべきことを幅広く示したものであること、また、今後の進捗状況などに応じて新たな取り組みを盛り込みながら拡充させていくことを記載いたしました。

そして、本戦略に基づき、企業・団体・大学・行政などがそれぞれ主体的かつ連携して、オ

ール千葉体制で取り組みを進めていくことを記載いたしました。

次に、2ページをごらんください。ここでは、基本方針と戦略の関係を図にして、わかりやすく示したものでございます。このページを新しく加えました。

次に、本文の記述のほうになります。5ページの中ほどをごらんいただきたいと思います。5ページの中段でアンダーラインを引いてございますが、アンダーラインを引いた部分は前回からの文言の修正部分でございます。この5ページのアンダーラインの部分では、キャンプ誘致に関する情報の一元化という項目の中で、県の平成27年度当初予算が成立したことを踏まえまして、キャンプ誘致を進めていく上でのワンストップサービスということで、スポーツコンシェルジュの設置を明記いたしました。

次に、ページが飛びますが、17ページをお開きいただきたいと思います。ここは戦略4「バリアフリー化の促進」の項目の記述でございます。この中段のところにバリアフリーマップについての記述がございますが、市町村から、障害の特性に応じた情報提供・コミュニケーション手段の確保に配慮する必要があるとの御意見を受けまして、その旨を書き加えたところがございます。

続きまして、22ページをお開きください。戦略の6「外国人受入体制」についてでございます。22ページの下から2つ目の四角のところ、「道路案内標識、観光案内板、避難所誘導看板等の公共空間における多言語表記等」とあります。この主な取り組み主体を括弧書きで書いてございますが、市町村から、取り組みを進めるに当たっては事業者との連携が必要であるとの御意見を受けまして、ここに「観光関連事業者」を加筆いたしました。

次に、ページは飛びますが、33ページをお開きいただきたいと思います。戦略の9「戦略的な千葉の魅力発信」の項目でございます。市町村からの御意見を踏まえまして、県内各地のフィルムコミッションと連携していくことを加えました。

次に、35ページをお開きいただきたいと思います。35ページから37ページまでは用語解説を新たに加えました。本文にある片仮名言葉など、一般的にわかりにくい言葉につきまして解説をするような形で、このページを書き加えております。

続いて、38ページをお開きください。ここは参考といたしまして、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けたオール千葉の体制図を書いてございます。

また、39ページには推進会議委員の名簿、40ページには専門部会の構成団体の一覧を添付しております。これは、オール千葉体制で策定したということを確認するものでございます。

戦略案の説明につきましては以上でございます。よろしくお願いたします。

○石井議長 どうもありがとうございました。

それでは、ただいまの説明につきまして御質問、御意見等ありましたら、挙手をお願いいたします。いかがでございましょうか、大変盛りだくさんなので、なかなかこのところと言いつらいかもしれませんが。

今の関連で、ちょっと出てきてくれるとありがたいんですが、資料1の1のところ、総花的で、いろんなものが入っていて、焦点がちょっとぼけたのではないかというふうな御意見が書いてございますが、これは多分、事務局にもかなりそういう声が伝わったのだろうと思います。それから、私のほうとか、副座長の新倉先生のところにもそういう声は入っているようでございますが、いろいろ説明がありましたけれども、オール千葉ってやると、こうならざるを得ないというところはひとつ御理解をいただきたいと思います。

それから、範囲が非常に広いんですね。ですから、千葉県戦略を見ても、去年つくった千葉県のいわゆる総合計画の中身の項目が随分入っているんですね。ですから、いわゆる県の行政そのものがここにやっぱり触れざるを得ないというようなこともありますんで、企画でつくっていますからそういうふうに思うんですけども、そういうことも含めて御質問とかなんか、意見を言っていただけるとありがたいと思います。

はい、どうぞ。

○増田委員 じゃ、失礼します。

でき上がった戦略は、すばらしいものができたと思います。これをもとに、この先どのように進めていくかが重要になると思うんですが、進め方の中で、例えば戦略2の「競技力の向上・スポーツの普及」というところで、8ページから9ページにかけてになります。千葉県はパラリンピックの合宿地などもこれから頑張ってもらいたいと、ずっと言わせていただいている中で、この障害者スポーツを普及・強化するために大事なのは指導員だと思うんです。それから、健康スポーツのほうでも、県民のスポーツ振興や健康づくりの機運を高めていくためにも、指導員をふやしていくことが大事だと思います。

そう考えたときに、幾つかのデータ見てみましたら、千葉県は指導員の数が少ないんですね。例えば障害者スポーツの指導員の数は、お隣の茨城と比べてみると、人口では茨城は千葉の半分ぐらいなのに、指導員の数は同じぐらいなんですね。

これから5年後に向けて障害者スポーツを強化・普及していくためには、指導員をどういうふうに増やしていったらいいのかを、頑張りますだけではなくて、具体的な数値目標を出していく必要があるのではないのでしょうか。今、障害者スポーツにおいては500人強だったと思う

んです。それを、いついつまでに1,000人にふやすとか、そういうような数値目標などを、ここだけではなくて、あらゆるところを出して行って欲しいと思います。ボランティアの数にしてもそうだと思うんです。このぐらいの数値目標でやっついこうってというようなことで取り組んでいったほうがゴールが見え、小さなゴールが目の前にあったほうが頑張りやすいと思いますので、様々な項目に数値目標を設定することが大事ではないかなと思います。

以上です。

○石井議長 ありがとうございます。

具体的に各競技の指導者っていうんですか、その辺の数が少ないんでということの御指摘だと思いますが、ただいまの増田委員の意見に対して、事務局で何かございますか。

○今泉政策企画課長 指導員の数につきましては、どの程度必要なかというところが、正直なところ、まだわからないところもありますので、今後、我々も市町村ですとか競技団体とも相談しながら、この下部組織であります専門部会の中でも検討してまいりたいというふうに思います。

○石井議長 ありがとうございます。

私も素人ですけれども、この問題は各競技団体のスタンスがすごく大事だと思うんです。ですから、この会議の中身が各競技団体に正確に伝わっているかどうか、そういう中で競技団体が自主的に、よし、我々やらなきゃいけないという判断をしてくれるかどうかというのがポイントだと思います。ですから、競技団体の委員の人がここに全部参加しているわけではありませんので、そちらにも何かうまいコミュニケーションがとれる、今日の会議の結果がすっといく、そのようなシステムをつくっていただければありがたいのではないかなと、増田さんの御発言が大変意義あるものになるというふうに思います。ありがとうございます。

ほかに御意見、御質問ございますか。はい、どうぞ。

○島内委員 順天堂大学の島内と申します。

先ほどの障害者スポーツの指導員の件につきましては、私ども大学は平成27年度より、日本障害者スポーツ協会と連携いたしまして、順天堂大学スポーツ健康科学部で開講されている、これに関する科目を受講すれば指導員の資格を取得できるということを今動かしております。

それからもう一つ、笹川スポーツ振興財団と連携いたしまして、スポーツボランティアリーダーも2020年に向けて学生のレベルから輩出していこうということで、2つの大きな企画を動かしているということを御報告させていただきたいと思います。

どうもありがとうございました。

○石井議長 ありがとうございます。

何となく感じるんですけれども、きょうはお休みですけれども、鈴木大地さんが前会議に出ていると思いますが、オリンピックの優勝選手ですけれども、あの人もそう、増田さんもそうなんですけれども、いるだけでそういう雰囲気が出てくるんですよ。よし、頑張らなきゃいけないっていうね。そういうものってすごく僕は大事なような気がするんですけどね。

じゃ、ちょっと指名をいたしますけれども、ちばアクアラインマラソンが始まったわけですが、これを統括して進めておりました教育長の瀧本さんも、御転勤のようでございますね。やはり千葉県のスポーツのいわゆる頂点ですから、そういう意味では、何かちょっと発言をしてから国へ帰ってください。

○瀧本委員 はい、議長の御指名です。

スポーツ関係については、この後、荒川委員から補足していただけるとありがたいのですが、アクアラインマラソンもそうですが、いろいろなところに本当にいろいろな指導者やボランティアが必要だと思います。この戦略にも人づくりの推進が入っておりますので、指導者やトレーナーなどをしっかりと育成できるように、様々な分野の方々と協力をして進めていけたらよいと思います。

ありがとうございます。

○石井議長 すみません、急に。意外とスポーツってお金がかかるんですね。やった人はよくわかると思いますけどね。何かきのう、14歳のお嬢さんが卓球で世界で優勝したというのが大分ニュースになっていましたけれども、あんな小さなラケットが1万円ぐらいするんですよ。物すごいお金がかかるわけですよ。

日本は非常にそういうスポーツ関係予算が少ないですよ。だから、僕が期待していたのは、瀧本教育長、国へ帰ったら、ぜひ頑張って、オリンピックを機会に、特に千葉県にはふやしていただくようお願いをしておきます。

そのほかに御意見ございますか。はい、どうぞ。

○荒川委員 体育協会の荒川でございます。

戦略2の問題ですけれども、これまで現実的には、オリンピックとパラリンピック、それから通常の競技スポーツと障害者のスポーツというのは、どちらかというと別々の道を歩いてきたって、そんな感じがしています。オリンピックで、とにかく一緒になるんだ、同じ大会になるんだという、その位置づけがなされて、それから、千葉県もそうなんですけれども、慌ててといった表現はちょっとあれかもしれませんが、これまで別々だったパラリンピック、障害ス



ポーツと競技スポーツを一緒にしよう、一緒にやらなければいけないんだって意識づけがやっとできてきたところじゃないか。

この戦略の2の中にも、支援体制、障害者スポーツに対しては、競技組織が支援をするんだという項目が入っていますけれども、これから専門部会の中で十分もまれると思いますけれども、その辺について、競技団体の中で、あるいは体育協会の中で、教育委員会の中で、千葉県全体の中で、これまで別々だった組織あるいは運営の方法というのを一緒にできないか。これは非常に大変だと思うんですけども、やらなければならないことだと思っています。

○石井議長 ありがとうございます。

大変貴重な御意見だったと思いますが、関連で何かございますか。

それでは、その問題ということに限らず御意見をいただきたいというふうに思いますが、資料の中に出ていましたけれども、各市町村からかなりの御質問とか御意見が出ているように思いますけれども、市町村関係の方で、きょう御出席している方で御意見が何かあれば、いかがでしょうか。どうぞ。

○小柴市長会・町村会事務局長（岩田委員・志賀委員代理） きょう、市長会長、町村会長ともに公務のため欠席でございます。私、事務局長でございます。

県内市町村につきましても、このオリンピック・パラリンピックにつきましても、全力を挙げてやっていきたいという考えでは、各団体のほうでお話は出ております。市町村財政等、かなり厳しいという中でやっていくには、県の力もいただきたいということでございますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

以上でございます。

○石井議長 事務局のほうから何かありますか。

○今泉政策企画課長 市町村がこれからいろいろ取り組んでいく中でも、確かに財政的な面で苦しいところはあるかと思ひます。我々としても、やはり市町村の取り組みを支援していこうということで、施設の整備に当たっても、例えばパラリンピック進めていく中でバリアフリーが必要な部分を支援する貸付事業などを考えているところです。

そのほかにも、お金だけの話ではなくて、やはりこういったものはソフト事業で知恵を絞ってやっていくということが大事だと思ひますので、市町村から御相談があれば、県のほうでも相談を受けていろいろと、キャンプ誘致等について、一緒に考えているところでございます。

そういったことで、県も市町村も一体となって、まさしくオール千葉体制でこれからも取り組んでいきたいというふうに、そのように思っております。

○石井議長 ありがとうございました。

委員の中に学校関係の方が少ないんですけども、やはりスポーツ振興ってことになると、学校でどうやってくれるかってこと、非常に重要なポイントになりそうな気がするんですが、その辺で御発言があればお聞かせいただきたいと思いますが。

よろしいですか。今、甲子園やっていますけれども、木更津総合が勝ったんで、えらい千葉県も盛り上がっていますよね。スポーツってそういうもんだと思います。ですから、それがやっぱり千葉県のエネルギーになる、今後の発展につながっていくというふうに確信をしておりますんで、この委員会が何かそういう意味で役に立っているというような形になれば非常にうれしいなというふうには感じておりますけれども。

この間、ちょっとおもしろいことがあったんです。成田空港というのは千葉県の発展の鍵を握っていると思いますが、これを使ってもらうためには学生の意見を聞きたいということで、5チームつくって、成田空港の中で発表会をやったんですね。これはNHKさんに取り上げていただきましたから、見た方もいると思いますが、その中でおもしろい話があったんですね。女子旅をやったらいいという、そういうのがありましてね。その中で、今、東京から成田空港まで1,000円なんだそうです、バス賃が。それをゼロにしちゃえと。それで学生を、とにかく今度は安いターミナルができますね、そこからもう世界に向けてどんどんどん出しちゃおうと。そんな発表があったんですが、おもしろいなと思って見ました。

その中で関係があるのはバス協会ですね。大室さん、いかがでございましょうかね、この話は。

○大室委員 実際に自分の会社で、今900円でやっていますから。無料にするというのは無理にしても、実際に御利用者の半分近くは10代、20代なんです。ネットで購入して気軽に乗ると、そういう若い方が今、口コミで広がってしまして。我々も、ほかの大学の学生さんに実際に乗っていただいて、いろいろな評価を受けたり、改善点を指摘していただいたり、そういうような改善すべき点はまだまだあるとは思いますが、やはりLCCの就航増などに合わせた、LCC・NAA・エージェン等との連携した対応というのが今後、成田空港には求められるのかなと思っております。

先ほど、ちょっと質問しようと思っていたんですが、オリンピック・パラリンピックの障害者輸送に対して、バリアフリーということでのいろいろ記述があるんですが、東京都内と比べて、千葉県内ではまだリフト付きのバスというのは一台も入っておりません。リフト付きバスを自分の会社でも千葉県内で入れようとしたんですが、やはり歩道幅とか、あるいは停留所の上屋

の高さとか、実際に3メートル以上あいていないとリフトの操作ができないと、こういうこと  
もありまして、リフトつきバスの導入をどうやって広めていくのか。また、この補助金制度を  
どこまで千葉県さんに応援していただけるのか。通常車両との差額が結構リフト部分でありま  
すのと、やはり乗降口と座席の改良も必要になってきますので、そういったバリアフリーを進  
めなければいけない一方で、パラリンピックを踏まえた、成田空港に来た選手の方、関係者  
の方をどうやって輸送するのかなど。これが現実問題として、通常の一般路線バスを持ってい  
ればそれは済みますけれども、一般路線バスは高速道路の運行にはなじまないのです。そう  
いった部分の、リフトつきバスの導入促進、また、その補助制度、また道路等の整備、こう  
いったものを一回洗い出しをしないとまらないのかなど。ですから、バス協会の中でも、  
その辺を議論して、整理をしていきたいと思っている最中でございます。

○石井議長 ありがとうございます。直接オリンピック・パラリンピックに関係はないの  
かもしれないんですけども、関係あるんですね。大変大事な問題で、そういう立場の方  
が大変多いのではないかと思います。今後ともよろしく願いいたします。

僕なんかね、ちょっといいかげんに考えちゃうんですけども、例えば今の900円とか1,000  
円なんて、旅行会社が何かの中へ入れて持てばいいんじゃないかと思うんですけども、  
そういうのは難しいんですか。

○大室委員 旅行会社次第だろうとは思いますが。

○石井議長 そうですか。そうすると、旅行会社から御参加いただいているのは佐川さん。  
何かありますか、今の件で。

○佐川委員 JATAの佐川でございます。

私ども営業分野で、企画分野と変わってくるので、その辺の専門知識は持ち合わせてい  
ないんですけども、その辺はまた企画分野のほうに投げかけて検討していきたいと思  
います。

私が気になっておりましたのは、昨年度、訪日のお客様が1,300万人を超えられて、  
本年度も、この2月、3月の春節におきまして、一昨年度から2倍のお客様が今日本  
に来られているということをお聞きまして、もしかすると、今年中に1,500万人を超  
えたり、当初、2020年に目標を立てた2,000万人も、もしかしたら来年、再来年  
でクリアしちゃうんじゃないかというような勢いがあるということで聞いてお  
りまして、その際に、これだけたくさんの方の戦略を得て、たくさんの方の訪日  
の方がいらっしゃったときに、受け入れ体制の箱は大丈夫なのかなというのを  
心配しております。特に今日、インバウンド協会の早川会長もいらっしゃって  
いまして、その辺はすごく詳しいんですけども、現状でも今、東京や成田の  
ホテルが満杯状態ということ

になっているということで聞いておりますので、今後、誘致をするに当たりまして、その辺は  
どういうふうにしていったらいいのかなと、今ちょっと具体案を持ち合わせていないんですけ  
れども、気になるところでございました。

○石井議長 わかりました。大事な問題だと思います。

事務局、何か御発言ございますか。

○今泉政策企画課長 確かに宿泊等のキャパ、これは大きな問題だというふうには認識してお  
ります。現状のままだと、確かにかなり厳しいのかなというふうになると思いますので。例え  
ばキャンプに来るにしても、必ずしも、一流ホテルばかりではないということもございます。  
そういった中で、いろいろ宿泊設備等についても考えていかななくてはならないというふうにし  
ています。

それから、宿泊客が、1カ所に集中するということについては、なるべく分散させていくよ  
うなこともやっぱり考えていかななくてはいけないのかなというふうに思っております。

○石井議長 ありがとうございます。

それでは、これに関連することになるのかどうか分かりませんが、今、北陸新幹線が、非常  
にいい評判が出ていますね。今日討議いただいているのは、2020年のオリンピック・パラリン  
ピックで終わっちゃう問題ではないですね。最終的に、これは千葉県の産業をどうするかって  
問題で、そうすると、観光ってことにどうしてもぶち当たってくるわけですね。そういうこと  
が一部、今の発言の中に入っておられたというふうに思いますが、今、金沢が大変評判がいい  
ですね。だから、いろんな全国の大会というか、会議とかが多いんですね。我々も何回も行き  
ます、今年はですね。JRは大変それでもうかっていると思いますが。

結局、観光とかなんか考えたときに、路線とか道路の問題だけではなくて、魅力のあるもの  
がその土地にあるかどうかというのがポイントのような気がするんですね。そこで、今日御  
参加の中で関係している方は石川さん。すみません、御発言をお願いします。

○石川委員 今ほど北陸新幹線の金沢延伸についてのお話をいただきましたけれども、3月14  
日の開業以来、非常に好調と聞いております。今までと比べて、東京から2時間28分で金沢ま  
で、2時間8分で富山まで結ばれたということで、選択の幅が広がったということが大きいと  
思います。

あわせて、金沢、富山と、もともと非常に魅力的な北陸の観光地が、今非常に脚光を浴びて  
いるということだと思っています。

また、金沢、富山への送客だけではなく、例えば松本から高山を経由し富山へ抜ける、もし

くは金沢へ抜けるルートのように、いわゆる広域の観光ルートの開発も含めて、社内でいろいろ検討しているところであります。

いずれにしても、すでに地域の中で取り組んでいただいておりますが、今のいわゆる開業ブームを一つの契機として、観光エリアの中で、継続して魅力をブラッシュアップしていくことが、長い目で見て観光流動というものを創り上げていく、と思っています。

同様に、千葉県においても、いろいろ魅力のある観光地が多い中で、観光の魅力をブラッシュアップし続けるということが今後の課題であり、非常に大事なことではないか、と考えているところでございます。

以上です。

○石井議長 ありがとうございます。

本当に魅力あるものはあると思うんですね。ただ、千葉県人というのは、そういうのをPRしたり何かするのが下手ですね。ですから、これからの大きな課題になるかなというふうに思いますが。

PRといえば、やっぱりマスコミサイドの意見をちょっと聞いておいたほうがいいと思いますんで、ベイエフエムの吉岡社長、お願いいたします。

○吉岡委員 ベイエフエムの吉岡と申します。

今回の会議で言うべきことなのか、あるいは専門部会で言うべきことなのか、ちょっと悩むところではございますけれども、告知を仕事としておりますマスコミ関係、新聞、テレビ、ラジオは、やはり何か1つ大きなスローガンみたいなものがあつたほうがやりやすい。

思い返してみると、お国レベルで招致したときには、たしか「ディスカバー・トゥモロー」という言葉をスローガンとして、全員の自己ベスト、それから多様性と協調、それから将来へ向けてみたい、3つのコンセプトで招致が成功したやに聞いておりますし、記憶しております。

それを受けてやる必要はさらさらないのかもしれませんが、オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略というものをある言葉で1つぽんと出してしまえば、それは千葉県の戦略の代名詞だよみたいな形の言葉があれば、我々告知をする仕事としてみれば大変やりやすいというふうに思いますし、専門部会に出る我々の会社の若手が当然そういう意見をこれから言うんだろうとは思いますが、全体に絡むことであるならば、きょう御出席の委員の皆様方にアドバイスもいただきながら出したほうが、スローガン的なものはいいのかなと。

ただ、広告代理店と、それからIOCとの関係の権利関係というのは大変難しいというふう

に聞いておりますし、オリンピック・パラリンピックって言葉を出すことが、恐らく大分規制されるというふうに思います。そんな中で千葉県の戦略独自のものが考えられるならば、それはそれでいいなという、その背景があったもんですから、こういう場で言わないで、専門部会で出してももうということを考えておったわけですけども。

そんな中で、少しPRになりますけれども、弊社も4月から、エリアパートナーという形でリスナーさんといろいろと提携をして組んで、地場の情報を、通常の社員がやるのではなくて、本当のリスナーさんが現場で意見を電波通して言う、あるいは画面通して言う、あるいは新聞紙等を通して言うというような形も一つの情報発信の形かなというふうに思っておりますので、引き続き専門部会等でアドバイスいただければ大変ありがたいというふうに思います。

以上です。

○石井議長 どうもありがとうございました。

マスコミの側からの御意見でございますけれども、それでは、地元千葉日報の萩原社長、何かございますか。

○萩原委員 二、三、気がついた点を。

やっぱり観光ですよ。それで、MICEの中に書いてあるんですけども、アフターコンベンションの魅力向上があります。とにかく来ていただいた方、あるいは千葉に誘致しようというなら、やはり施設とかなんとかというより、都市全体の魅力なんだと思うんですね。千葉の本当に郡部のほうにキャンプ地を張ったとか、そういうことだとなかなか都内に出るのも大変だと思うんですが、都内に近いところにキャンプ地張ったりなんかすると、あるいはそういうところに宿泊した場合、アフターコンベンションで果たして千葉に来てもらえるだろうかという、みんな東京へ行ってしまわないかと。現在も、メッセあたりのイベントでは、アフターコンベンションといっても、千葉でなくて東京に行っちゃうことが多いような気がいたしています。

ここに書かれている中で「ユニークベニューの活用」というのがあって、これは諸外国では普通にやっていることだと思うんですけども、千葉にもすぐれた美術館、博物館、そういうものはたくさんあります。そういう中でのパーティーですよ。教育施設なもんですから、お酒はだめよとかっていうような話もあるかもしれませんが、まずはそういうところの規制緩和というのか、そういうものはみんな、市町村も含めて意思統一してやらなきゃいけないと思いますし、また、せっかく来てくれたんだから、千葉のお祭りとかもぜひ見てもらいたいなど。季節によって本物は見られないわけですけども、本物でなくても、出張で見せられ

るものも幾らでもあると思うんですけれども、そういうものを何か定期的に常設で見てもらえ  
るとか、太鼓とか郷土芸能なんかもあると思うんですが、メニューには書かれていますけれど  
も、そういうものをいかにうまく見せていけるのかなど。何かそういうことで、我々にとつて  
はごくごくありきたりに見えるそういう郷土芸能でも、やっぱり諸外国の方、あるいは県外  
の方にはおもしろいかもしれませんので、何かそういうアフターコンベンションで大いに引きつ  
けられるような施策を積極的に打っていただけたらどうなるかなと思っております。

それから、この中に一つ気になったのは、これは多分2020年は絶対間に合わないと思うん  
ですけれども、I Rが入っています。I Rについては検討と書いてあるんで、わからないん  
ですけれども、いろいろ推進される方、あるいは千葉市なんかは比較的熱心なんだと思うん  
ですけれども、ただ、防犯上の問題とか教育の問題とかで、いろいろ意見が分かれていると思  
うんですけれども、メニューに載せてあるということは、将来的には何か考えておられるのか  
どうかあれなんですけれども、もし余り、スタンスがはっきりしていないのなら、わざわざ載  
せる意味がどれぐらいあるのかなど。個人的には、I R、大変おもしろいと思っております  
けれども、まだ広範な形で意見を聞いたこともないようですから、無理に載せる必要がある  
のかなという気はいたしています。

もう一つは、外から来られる観光客を千葉に引きとめたいと、あるいは千葉で楽しんで  
もらいたいということだと思っておりますけれども、国なんかは多分ちょっと違うんだと思  
うんですが、1県だけじゃなくて、隣県で周遊コースみたいのをつくって取り組んだら  
どうかというようなこともたしか言っていたかと思いますが、余りその辺のことは、隣  
県とのタイアップとか、あるいは千葉と親しいところと、ちょっと離れても何かう  
まくタイアップして、お互いを行き来するとか、何かそういう広域的な取り組みとい  
うのはどうなのかなと、そんなふうに思いました。

○石井議長 ありがとうございます。

事務局のまとめについての御意見だと思いますが、事務局、どうぞ。

○今泉政策企画課長 アフターコンベンションということでの魅力が、まだ千葉には  
足りないんじゃないかという御意見だと思います。

そういう中での、先ほどもI Rのお話がありました。ページでいうと21ページとい  
うことになりますけれども、I Rにつきましては、まず、カジノということを考えま  
すと、これは法律としての整備が必要になってまいります。現状の中で、国のほうで過  
去に何度か法案提出されましたけれども、いずれも廃案になってきたという経緯も  
あり、また新しく法案提出という

ことにもなっていると聞いております。そういう中で、県としても、I R一筋にがんと進めていくってところまでは、今の状況の中では動きにくい部分もあると思います。

また一方で、これは県だけの考えではなくて、やっぱり地元の市町村の考えということも大事になってまいります。そういう中で、我々も市町村に対していろいろと情報提供はしております。そういう中で、市町村と考えが合ってくれば、その中での検討ということが進められるのかなというふうに思います。

いずれにしても、まだ法制度ができていないということが一つ大きなネックなのかなというふうに思っております。

あと、周辺とのいろいろなタイアップ、広域的な取り組みというようなお話もありましたけれども、これにつきましては、特に観光という分野で、もう既にいろいろな取り組みをやっているというようなことを観光企画課長からは伺っております。

**○石井議長** ありがとうございました。

オリンピックとかパラリンピックの議論をしていると、観光へいかざるを得ないんですけどね。I Rの問題なんかは、これに特化してもうちちょっと議論をしなくちゃいけない問題だろうと、僕は個人的にはそう思っているんですけどね。

そこで、ちょっと視点を変えまして、このオリンピック・パラリンピックが千葉県内の中小企業にとって、どんなかわり合いになるのかなというようにことって意外と大事なことだと思うんですね。今、アベノミクスで景気はよくなっていると言っているけれども、いろいろ千葉県内の調査をしてみると、中小企業は景気よくなったって言っていないんですよ。そこで、中小企業とオリンピック・パラリンピックをどういうふうに結びつけるかという観点から、中小企業団体中央会の坂戸委員から、ぜひお願いします。

**○坂戸委員** 発言の機会いただいて、ありがとうございます。

今、私ども中央会は、この22ページにある外国人受け入れ体制の専門部会に参加をさせていただいております。これを、そういう関係から、この辺、注意深く読ませていただきました。

今、23ページに「無料公衆無線LANの整備等」というものが書かれてございます。これは、調べてみましたらば、現在これ、全国の商店街でこれを運用しておる場所が20カ所ぐらいだそうです。

我が千葉県におきましては、柏で今月、供用開始をされたところでございます。これ、柏の商店街さんなんですが、この方の理事長さんとお話をいたしまして、どうなんだろうと、このオリンピック・パラリンピックを活用して、どんなことをお考えになっているのかということ



でお聞きをしたところ、2,000万人からの観光客を将来呼ぼうということになっておるわけでございます。そうしますと、俗に言う観光地を歩いていくという旅行だけが国内が受け入れる旅行じゃないと思うんですね。日本の生活そのものを経験しながらいこうというような外国の旅行者もたくさん来るだろうということでございます。その生活を楽しみながら、経験しながらってことになりますと、当然この商店街で何かをするというようなチャンスがふえるんだと、だからこの無料無線LANに取り組んだというお話を聞いて、あ、これは大変すばらしいことだというふうに私は思いました。

今、ここにいろいろ、「観光地や観光施設、文化施設」といろいろ書いてございます。ですから、これを実行するに当たりまして、今申し上げたように、商店街もあれば、いろいろなものづくりの現場もございましょう。そういう人たちがこれにチャレンジできるように、中央会がほかの経済団体と一緒に支援をしていくつもりでございますが、その支援対象を幅広に受けとめていただきたい。いただければ、県内の中小企業、とても喜ぶんじゃないだろうかというように思って、お願いをいたすところでございます。

○石井議長 ありがとうございます。力のある御発言で、千葉県の中企業の団体では一番会員数の多いのが今の中央会ですから、ぜひ引き続いてよろしく願いいたします。

そのほかに、これだけは発言しとくというようなこと、ございます方は挙手を願います。はい、どうぞ。

○渡辺委員 戦略5の「魅力ある観光地づくり」と、戦略6の「外国人受入体制」の部会のほうからの報告的なことを述べたいと思います。

魅力ある観光地づくりというのは、もう御存じのとおり、地域別で抱えている課題と戦略というのは全く異なっていて、そういった意味では、成田空港近辺の話と、例えば安房地区の話というのは全く違うわけです。そうしますと、地域別の観光戦略と観光計画というのはそれぞれの地域でつくっていかないと、なかなか全体の上澄み的な形になってしまうということをおそれます。そういった意味で、千葉県には観光学部がある大学というのは幾つかありますので、そういった大学と地域振興事務所とインバウンド関係の委員会に加えて、観光業者を含めて連携しながら、その地域が持っている観光資源を発掘しながら、地域の課題を踏まえて、どういう形でインバウンド観光をしていくんだということを、地域におろした議論や計画策定をしていく必要があるのだろうと思います。部会のほうではそういった形の方向で今進めさせていただいていますので、情報提供ということで御報告させていただきました。

○石井議長 ありがとうございます。そこへいくんですね。どうしても観光というところへ

いくんだらうと思いますね。

たまたま土曜日でしたかね、7チャンネルかなんかで、房州一周の駅の何か、そういう番組で1時間半か2時間のをやっていたんですね。そうしたら、その番組を見ていた人だと思んですが、日曜日がいいお天気だったんですね、今週は。一斉に車が出てきたんですね。それで、僕はちょっと葬儀があって木更津まで行っていたんですが、もう木更津から千葉まで帰ってこられないです。もうアクアラインも手前からだ一っといっぱい。それから、千葉も蘇我の先から東京まではつながった。そういうような状態なんで、いかにテレビ局なり何かのそういう告知されたものの影響力が強いかってというのは実感したんですけどね。

そういう意味では、多分この土日は大変お客さんが入って財務的にはもうかったというマザー牧場の社長が今日来ていますんで、一言ちょっと観光に絡んで、お願いいたします。

**○前田委員** 会長に思わぬところで御指名をいただきまして、ちょうど手を挙げようかなと思っていたところなんですけれども、観光って何かというと、やっぱりリアルのものを見ていただく、見て触れて、さわって、現地に来た、ここだと思っんです。

オリンピックまでの四、五年を考えると、間違いなくバーチャルの世界。ネット上のもの、また、映像も立体のものが出てきたり。これから4Kも、実はテレビ売っていますけれども、まだ放送は有料じゃないとされていない。4K、それから、オリンピックまでに8Kというとてもないリアルな画面も出てくる。そうすると、ほとんどバーチャルの世界で競技を見たり感動ができると思っんです。

その対極にあるのがリアルの世界、観光、本物だと思っんです。バーチャルの世界が発展すればするほど、リアルが対極で大事になってくる。それが間違いないんで、それを千葉県の観光がどう提供できるかということ。

マザー牧場にたくさんお客様がいらっしゃっているというのは事実で、特にこの時期、花が人気あります。千葉県の県の花である菜の花、あるいは最近、我がほうでは、ペチュニアなんですけれども、原産は、「桃色吐息」と申しまして広大な牧草地を埋めるピンクの花とか、物すごい人を集める。

千葉県の特色としては、一つは花じゃないかと思っんです。寒くて雪が降り過ぎることもないし、暑過ぎて枯れてしまうこともない。千葉県の広い県土、あるいは温暖な気候を考えれば、何か徹底的にやるといったら、例えば花を徹底的にですね。マザー牧場も植えますけれども、一軒一軒の民家の庭先に1輪、2輪でも植えていただければ、県全体が花で埋め尽くされるとか。

しかも、海外のお客様も受け入れております。例えば牧場のショーは、やはりもともとオーストラリア、ニュージーランドの人は、その国にありますから、わざわざ見に来ないし、アジアのお客様も、実はそれらの農業国に行って見ているんで、そんなにマザー牧場であえて見なくてもなということもあると思うんですけども、花だけは世界中の人が間違いなく、その国にあっても好きなんですね。例えば、タイの皆さん方が昨年、日本に、王室も含めていらっしゃって、タイは花がいっぱいあるんだけど、それでも千葉県の花が見たいっていうふうにおっしゃったんで。

リアルの世界で観光が勝負する。その中で、やっぱり千葉県でパワーがあるのって、具体的に言えば花なんじゃないかなっていうのが、具体的には今考えています。

それから、提言の中にもスポーツツーリズム等がありますけれども、参加型のイベントですね。これもリアルしかないんです。オリンピックは見るものなんですけれども、やはりこれらの期間、県民がいかに参加できるスポーツイベント、これも大事だと思うんです。アクアラインマラソンに代表されるイベントが立ち上がっていますけれども、県民が参加できる、大中小かかわらないスポーツイベントの数をやっぱり上げるような努力。それから、パラリンピックもありますから、障害者の皆さんも参加できるパラリンピック。あるいは、もっと先には、実はスペシャルオリンピックというのがありまして、これ、知的障害者のスポーツとか、あるいは耳の不自由な方のスポーツ。これも、オリンピックにはないんですけども、あるわけですから、この辺も県民生活とかかわるので、広く健常者からさまざまな障害を持った方の、県民が参加できるようなスポーツイベント数のアップも、このオリンピックに絡めて一緒にできないかなっていうのが思いです。

せっかく振られましたので、私の提言としては、花の数を具体的にアップしようと、それから参加型のスポーツイベントの数をアップしようということを、改めて提言させていただきたいと思います。

○石井議長 ありがとうございます。前田さんは今、マザー牧場って言いましたけれども、東京タワーの経営者でもありますから、いろんなところから世の中を見ている発言だというふうに理解します。

それで、時間が大分押してきましたので、最後1人、このごろ、今出た花の関係で、房州をかなり取り上げていただいていますNHKの篠原放送局長、最後に御発言をお願いします。

○篠原委員 御指名ありがとうございます。

ちょうど前田さんの後に一言PRしようかなと思ったんですけども、まさによいタイミン

グで、実はすごく具体的な告知で恐縮でございますが、今週の金曜日、BSプレミアムで「新日本風土記」で「房総 花物語」という、まさにどんぴしゃの番組を放送させていただきます。私どももいろいろな形で千葉の元気を全国に発信したいと思っておりますが、やはり昨年度は「菜の花ラインに乗りかえて」というドラマを放送いたしましたけれども、千葉のキーワード、花というのは大いに私たちも賛同するところです。1年がかりで撮影をしておりますので、ぜひお時間ございましたらごらんいただければと思います。

すみません、PRだけではなくて、一言だけ、感想になってしまうかもしれませんが、お話を申し上げたいと思いました。

まず、総花的というお話があった中で、これからまさにその具体論に入っていかれるんだというふうに思います。そして、予算もついてアクションが起こっていくと、今のようなキーワードというのが私にとってはとても大事だと思います。何々を推進する、検討するではなくて、何々をやるということをぜひ具体的な項目で、これからのオリンピック関連事業では進めていただきたいなというふうに思いました。その意味で、他県ではなく、やはり千葉にしかできないことって何なんだろうということを、その具体化をするに当たって、いま一度お考えいただくことが必要なのではないかなというふうにも思いました。

先ほどから、例えば障害者スポーツの振興ということがございましたけれども、これからの高齢化社会に向けて、それは多様性の確保でもあり、オリンピックは5年後にあるわけですが、これを契機に、やっぱり10年後、20年後、千葉県が選ばれる土地にならなくてはいけないと思いますので、その意味でも、この障害者スポーツということにスポットライトを当てるといえるのは意味があるのかなというふうに思いました。

それから2点目に、間違いなく国際化が必要だと思います。これは、心の国際化ということもとても重要ではないかなというふうに感じています。先ほど、いろいろな形での外国人のおもてなしがあるというふうにございましたけれども、それに私にとっては賛成で、決していわゆる観光地だけではなくて、バックパッカーをしょって県内をてくてく歩いている外国人の方は大勢いらっしゃいます、私たちの気のつかないところで。そういう方々の目線で千葉をもう一度見直していただくと、千葉の魅力というのがまた再発見できるのではないかなというふうに思います。よそ者の視点と言ったら言い過ぎかもしれませんが、県内では当たり前のことが大変な観光資源になるという点の一つあると思いました。

それからもう一つは、皆さん、千葉の方は「千葉はいいところがあるんだけれども、PR下手でね」と、さっき石井会頭もおっしゃいましたけれども、ポテンシャルが、もう知事のおつ

しゃるとおり、たくさんあると思います。それをぜひやっぱりPRするためには、私はこのごろ自分で言っているんですが、皆さんに千葉自慢をしていただきたいと思うんですよね。千葉ってこんなにいいところがあるよ、こんなおもしろいことがあるよ、こんなに暖かくて食べ物おいしくてなんとかでって。私は今、千葉のPR大使を自認していますけれども、その意味でも、千葉には本当にいいところがありますので、県民の皆さんがどうやって千葉自慢をできるようになるか。

もしかしたら、キーワードは子供たちかもしれません。そのことも含めて、未来志向の千葉をつくっていくために、この戦略が実り多いものになることをぜひ期待したいと思います。

この一員に加えていただいて、大変ありがとうございました。

○石井議長 最後にうまくまとめていただきまして、本当にありがとうございました。

それでは、いろんな意見が出ましたけれども、成案については議長と事務局に一任していただいてよろしいですか。

はい、ありがとうございます。それでは、この辺で終わりにいたしまして、事務局から最後に、日程等を含めて、お願いします。

○今泉政策企画課長 最後に資料の4をごらんいただきたいと思います。

今後は、8月の世界陸上北京大会の事前キャンプ受け入れですとか、また、10月の車椅子バスケットボールのアジアオセアニアチャンピオンシップの開催に向けた準備など、具体的な取り組みを進めてまいります。

第4回の推進会議につきましては、専門部会における検討ですとか、具体的な取り組みの進捗状況について、この表にありますように、夏ごろを目途に御報告することを考えております。あわせて、国や組織委員会等の動きも踏まえながら、戦略の見直しについても御協議いただきたいというふうに考えております。

現時点では、推進会議の開催は年に2回程度、この表でいきますと7月と3月ということになりますけれども、こういったスケジュール感を持っております。具体的な開催時期につきましては後日改めて調整させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

なお、専門部会につきましては、それぞれ適宜開催することとしまして、本日の議論の中で課題として御指摘いただいた事項などについて、検討を進めてまいりたいと思います。

説明は以上となります。よろしく願いいたします。

○石井議長 ありがとうございました。

それでは、まだ意見を言い足りないという方も多々いらっしゃると思いますが、きょうはこ

ここで議事を終了させていただきます。御協力いただきまして、本当にありがとうございました。